人吉新聞　2025.3.12.wed.

人吉新聞 2025.3.13. thu.

人吉新聞　2025年(令和7年)3月12日 水曜日

球磨村

労働争議合意書 議会に回覧

松谷村長 活性化協は〝不履行〟抗議

球磨村の松谷浩一村長が先月、一般社団法人くまむら山村活性化協会の代表理事時代に従業員との間で発生したパワハラの疑いに関する労働争議調停の合意書について、第三者に口外できないにもかかわらず、同村議会に合意書のコピーを回覧させていたことが、10日に分かった。

合意不履行として、同日に記者会見を開いた同協会によると、当時代表理事の松谷村長から説明不足な点やクレームなどのパワハラを受けたと訴える従業員が、令和4(2022)年10月に労働局に調停を申請。同5(2023)年2月に調停が開始、同年3月30日に調停が成立した。松谷村長はその翌日に代表理事を辞任している。

合意書には「調停の経過や結果を第三者に口外できない」ことが明記されていたというが、ことし2月19日に開催された同村議会の意見交換の場で、松谷村長は従業員側重要の署名と押印があるという合意書のコピーを議員に回覧させた。

一般質問で答弁する松谷村長

複数の議員から従業員が報復を受け、同協会に悪影響などと判明。記者会見には富永知代代表理事、鈴木康夫副理事(東海大学名誉教授、熊本学園大学特任准教授)が出席し、鈴木副理事は「なぜ調停の合意書を公にしたのか。従業員は体調を崩し、訴訟も辞めている」と述べた。

同日の記者会見に行われた議会3月定例会の一般質問では、高瀬康成議員からの質問に答える形で理解してもらうために回覧させた。本来ならばしてはいけないことであり、私の不注意」と答えた。

一般質問では、村が同協会への業務委託を打ち切ることに関する質疑もあった(後日詳報)。同協会では近く理事会で今後の対応を協議するという。

焼却火の拡大注意を!

人吉下球磨消防組合 ことし入り3件発生

ことしに入って人吉下球磨消防組合(中村博雅管理者)管内で野火が起きた。

1月9日には相良村で焼却火が燃え広がる火災が発生。

消防署によると、焼却・処分として、乾燥・対策・焼却火の拡大による火災を強化中。屋外焼却中央署長は「家族や友人、地域社会とコミュニティの中で火の取り扱いや約束事を話し合っていくことが防火につながる」と呼びかけている。

継者ナシ(3~4坂田、短売却)

吉人日刊

球磨村

業務委託契約を打ち切り

4月から村直営 山村活性協会は反発

球磨村の一般社団法人くまむら山村活性化協会(富永知代代表理事)が、本年度で村からの業務委託契約を打ち切られることを受け、「合理的な理由がない」と反発していることが、11日に分かった。村では4月から村直営で委託していた運営業務を継続する。

同協会は村主導で平成31(2019)年に設立。独自事業のほか、村からの道路等維持管理と山村活性化支援の業務委託契約に基づき、景観整備や観光案内、道路の維持管理などを担っていた。本年度の業務委託料は同管理1845万8000円、同支援2530万円の合計4384万8000円。

同村議会3月定例会一般質問で、高瀬康成議員が取り上げた。中立の立場とした上で、「崩れた信頼関係を回復するためにも、村長が歩み寄ることはないのか」と質問した。

松谷浩一村長は、委託業務で村と法人、その従業員の連携がうまくいかない事象の発生により、「住民サービスにも支障が出てきている。村直営で業務を継続する方が効率的と判断した」と答えた。

現在、村で応募している会計年度任用職員で対応する方針。松谷村長は同協会に対し、「行政とは一線を画した民間法人として山村活性化観光地域づくりに寄与してもらいたい」と述べた。

同協議会では昨年12月の村から契約更新を見送る通知を受けた臨時理事会で「法人を設立した村の責任を果たすべき」として、通知の撤回などを求めている。同日に記者会見を開き、契約更新がなければ「倒産か解散に入る」としており、理事会で今後の対応を検討するという。

建設会社と現場代理人を書類送検

安衛法違反で人吉労基署

12月23日、人吉市中神町の河川敷における国土交通省発注の災害復旧工事現場で、関係請

建設労働組合
生花・胡蝶蘭のご用命は
春花堂
電話二四・二三六八
おくやみ届出日